

第六次中井町総合計画前期基本計画（案）に対する意見等及び町の考え方について

第六次中井町総合計画前期基本計画（案）に対する意見の募集を行った結果、概要は次のとおりです。

- 1 意見の募集 平成28年7月8日（金）～平成28年7月28日（木）【21日間】
- 2 素案の公表方法 （1）町公共施設（企画課、農村環境改善センター、井ノ口公民館、境コミュニティセンター）における閲覧
（2）町ホームページへの掲載
- 3 意見の提出方法 郵送、ファクシミリ、電子メール及び持参
- 4 意見等の提出者数 1人
- 5 意見等の提出件数 13件
- 6 意見等の内容及び対応等 別表のとおり

※ 別表中の対応区分の内容は下表のとおり

A	意見の趣旨等を前期基本計画（案）に反映させるもの
B	意見の趣旨等はすでに前期基本計画（案）に反映されていると考えられるもの
C	意見の趣旨等を前期基本計画（案）に反映することは困難だが、参考とさせていただくもの
D	内容に関する感想等その他のもの

第六次中井町総合計画基本構想に対する意見等及び町の考え方について

項番	該当ページ及び項目	意見等	町の考え方	対応
1	P 2～4 重点プラン ● 関連する主な施策	重点プランの〈関連する主な施策〉には、分野体系別肢(番号)を付すことで多分野にわたる関連性が一目となり、レファレンス性が高まるのではないかと。また〈目標値：〉(：は不要ではないかと)の「現状値」は、基準となる年(度)を付してはどうか。	1. 重点プラン中〈関連する主な施策〉について、分野別計画における施策番号を付すことでレファレンス性を高めるため、ご意見を踏まえ修正します。 2. 重点プラン中〈目標値：〉の表記について「：」は不要であるため、ご意見を踏まえ修正します。 3. 重点プラン中「現状値」について、現状値全てが同一時点のデータを使用しているわけではなく、他の関連計画などから抜粋しているものもあり、統一することが困難で、表が複雑になるため、基準となる年度の記載はいたしません。	A (1.2) C (3)
2	P 2 重点プラン1 多様な交流機会の創出 ● 波及効果	交流の活発化による波及効果として「コミュニティ形成」とあるが、既存のコミュニティに新たなものが加わることから「コミュニティの醸成」程度の表現でいいのではないかと。	重点プラン1の「期待される効果」中、「多様な交流機会の創出」における【波及効果】「コミュニティ形成」について、多様な交流機会を創出することで、新たなコミュニティ形成が促進されるという趣旨で「形成」という表現を用いています。 結果として既存のコミュニティとの交流等により「醸成」に繋がるとも考えられますが、既存のコミュニティの醸成だけでなく、新たなコミュニティ形成についても可能性を広げるため「コミュニティ形成」と表現させていただきます。	B
3	P 2 重点プラン1 ● 目標値	「多様な町民参加による新たなイベント開催回数」について「多様な町民参加」とは企業町民も含めると理解できるが、分野別計画において、この数値の根拠となる「イベント」が見出しにくい。5-2-1-1といった事業のこと指すと思われるが「多様な交流事業開催回数(新規)」としてはどうか。	重点プラン1の〈目標値〉中、「多様な町民参加による新たなイベント開催回数」については、ご意見のとおり企業町民も含めた交流機会の新たな創出に対する目標値です。 交流機会の創出という観点から、イベント開催に限定する必要性は無いため、ご意見を踏まえ「多様な町民参加による新たな交流事業開催回数」と表現を修正いたします。	A

項番	該当ページ及び項目	意見等	町の考え方	対応
4	P 3 重点プラン 2 ●目標値	「新規起業・就農者数」において、平成 27 年度中にすでに就農された方もいることから現状値に実績として記載してはどうか。	重点プラン 2 の〈目標値〉中、「新規起業・就農者数」における現状値について、本目標値の設定については本計画（案）の計画期間である平成 28 年度から平成 32 年度までの間に、各種施策の推進により累計 15 件の新規起業・就農者数を達成するというものであり、比較の対象として単年度（平成 27 年度）の実績値を用いることは困難と考えますので、本項目についての現状値の記載はいたしません。	C
5	P 3 重点プラン 2 ●目標値	「公共交通に関する満足度」は、オンデマンドバス導入前と同様の無作為抽出調査なら、町内に軌道ができたとしても 100% は難しい。しかしながら高齢化に伴う運転免許証返納も多数出、公共交通の利用ニーズが高まることから、目標値を適切に設定すべきだ。前回比 10 ポイント程度増の 30.0%、もしくは 3 人に 1 人が満足することを目標値にしてはどうか。	重点プラン 2 の〈目標値〉中、「公共交通に関する満足度」における目標値の設定について、満足度の調査方法は無作為抽出によるアンケートなどを予定しています。町民生活の利便性の向上のため 100% の満足度を求めていく重要性は認識しておりますが、一方で 5 年間という計画期間中で、実効性を担保するためには適切な目標値の設定が必要と考えます。 ご意見を踏まえ、オンデマンドバスなどの従前の取組に加え、町民ニーズに応じた新たな生活交通サービスの検討などにより、更なる満足度の向上を図るため、目標値を「25.0%」から「35.0%」に修正いたします。	A
6	P 2 1 分野別計画 施策番号 3-1-2 ●現況と課題	「開かれた園・学校にするとともに」はすでに開かれた園・学校への取り組みをしていることから、「開かれた園・学校であるとともに」。	21 頁 施策番号 3-1-2 「信頼される学校づくり」の【現況と課題】 2 行目について、ご意見を踏まえ以下のとおり修正いたします。 【修正前】「開かれた園・学校にするとともに、地域と共にある学校づくりを推進」 【修正後】「地域と共にある開かれた園・学校づくりを推進」	A

項番	該当ページ及び項目	意見等	町の考え方	対応
7	P 2 5 分野別計画 施策番号 3-2-3-2 ●施策内容	青少年の社会参加活動において地元企業との連携は多様な可能性を持っている。すでに中学生においても職業体験として地元企業から協力を得ているわけで、インターンシップ等も視野に入れ、「地元企業の見学」を「地元企業とのかかわり」と一歩踏み出してはどうか。	25 頁 施策番号 3-2-3-2「青少年の社会参加活動」の【施策内容】1 行目について、ご意見のとおり青少年の社会参加活動において、地元企業との連携による多様な機会の提供は重要と認識しています。 当該箇所については一例として「地元企業の見学」を挙げており、他の可能性を否定するものではないことから、いただいたご意見の内容についても本文の主旨に既に含まれているものと整理させていただきます。	B
8	P 2 8 分野別計画 施策番号 4-1-1-4 ●施策内容	砂利採取跡地については、多数ある地権者との協力も不可欠だ。「緑地や農地などの環境にも配慮しながら、地権者の協力のもと、有効な跡地利用を図ります」としてはどうか。	28 頁 施策番号 4-1-1-4「砂利採取跡地の有効利用」の【施策内容】について、ご意見のとおり地権者との協力は不可欠であると認識しています。 いただいたご意見については、砂利採取跡地の有効利用を図る上での前提条件ですので、本文の趣旨に既に含まれているものと整理させていただきます。	B
9	P 3 1 分野別計画 施策番号 4-2-1-2 ●施策内容	定住政策のひとつとして「空家・空地対策」があげられているが、空家には施策番号 5-2-2-1 としての利用も考えられている。そのほかにも犬猫シェルターなど社会課題を解決するための利用の可能性もある。そのため、「定住等のための資源として」と「等」を加えてはどうか。それに伴い、4-2-1 の【現況と課題】にも「今後増加していく可能性がある空家・空地の定住資源等としての」と「等」を加えてはどうか。	31 頁 施策番号 4-2-1-2「空家・空地対策の充実」の【施策内容】について、ご意見のとおり、空家の活用については定住施策以外にも、本計画案の他施策との関連性などもあります。 空家の活用方法を本施策のみに限定しているわけではありませんが、計画の体系上、本施策は「総合的な定住促進」を図る上での施策という位置づけと整理していますので、記載内容の修正はいたしません。	C

項番	該当ページ及び項目	意見等	町の考え方	対応
10	P40 分野別計画 施策番号6-1-2 ●現況と課題	<p>総合計画において「町民」とは自治基本条例に基づいて使用されていると考える。その上で、防災対策においては「町民」がだれを指しているかが不明瞭ではないか。</p> <p>【現況と課題】2段落目は自主防災会に関する記述で、6-1-2-2も同様であるから「町民」を「住民」にすべきではないか。</p> <p>また、災害時における事業所との連携については6-1-2-1だけでなく、【現況と課題】に「帰宅困難者対策」等として書き込むべきでは。</p>	<p>40頁 施策番号6-1-2「防災体制の充実」の【現況と課題】中の「町民」という文言の使用について、本計画案における「町民」の定義は、「中井町自治基本条例」における定義と同様です。（住民、町内に通勤又は通学する者、町内に事務所又は事業所を有する個人又は団体、町内において活動する個人又は団体）</p> <p>なお、本計画（案）の冒頭部に「町民」の定義について記載することで明確化を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【現況と課題】2段落目で使用している「町民」という文言は自主的な防災体制の強化を進めるための主体と協力相手を指しており、自主防災組織等の担い手は「住民」ですが、施策番号6-1-2-1に記載のとおり町内事業所等との連携・協力体制の整備が必要となることから、防災体制の強化のための連携対象として事業所等を含み「町民」と表現しています。 2. 施策番号6-1-2-2の1行目で使用している「町民」という文言についても災害発生時の避難支援体制の整備を行う主体及び協力相手を指しており、その対象を「住民」のみに限定する必要はないと考えるため、表現は修正いたしません。 3. ご意見を踏まえ施策番号6-1-2の【現況と課題】における「帰宅困難者対策」という文言の追加については、3行目に「さらに企業等と連携した帰宅困難者対策や」という文言を追加いたします。 	C (1.2) A (3)

項番	該当ページ及び項目	意見等	町の考え方	対応
1 1	P 4 7 分野別計画 施策番号 7-2-1-1 施策番号 7-2-1-2 ●施策内容	今後の行政改革にあつては、7-3-2-3 のオープンデータ、ならびにオープンガバメントの視点も必要になる。その基盤となる ICT を積極的に活用することで、業務効率化や経費削減をつなげるべきだ。事業評価制度の導入とともに、7-2-1-1 に加えるか、7-2-1-2 に「ICT の利活用も含め、効率的・効果的な事務事業の推進を目指します」としてはどうか。	業務の効率化を図る上で、各種手続きのオンライン化、システム化など、ICT の積極的な活用は重要であると考えます。 ご意見を踏まえ、施策番号 7-2-1-1 2 行目に「一層の ICT の利活用や」という文言を追加いたします。	A
1 2	P 5 0 分野別計画 施策番号 7-3-1-1 ●施策内容	項番 10 に関連して「町民の日常生活圏である」を「住民の」と始めるかもしくは「日常生活圏である」だけに留めるかをふくめ、全体を通し「町民」の記述には精査を求めたい。	施策番号 7-3-1-1 の【施策内容】の 1 行目の「町民」の定義について、「住民」のみならず「企業町民」を含んでいます。日常生活圏は人によって異なり、一律的な定義づけは困難ですが、本施策においては就労場所を含む通勤圏域を日常生活圏と整理しています。 また、本施策の内容は近隣市町との連携による様々な分野における広域連携ですが、一例として公共施設の広域利用など町内在住者に限らず在勤者を対象とした行政サービスもあることから、「町民」と表現していますので修正はいたしません。 また、全体を通して「町民」という文言が定義どおりに使用されているかについては精査いたします。	C
1 3	P 5 1 分野別計画 施策番号 7-3-2-1 ●施策内容	情報はなるべく広がったほうがよいが、「拡散」は受信者の意思によるものであるため、「情報の発信力を高め、共感を広げながら」としてはどうか。	51 頁 施策番号 7-3-2-1 「シティプロモーションの推進」の【施策内容】3 行目について、ご意見を踏まえ以下のとおり修正いたします。 【修正前】「情報の発信力、 <u>拡散力を高めながら</u> 」 【修正後】「情報の発信力を高め、 <u>共感を広げながら</u> 」	A

項番	該当ページ及び項目	意見等	町の考え方	対応
PC 対象外	P 1 2 分野別計画 施策番号 2-1-1 ●現況と課題	「食育推進計画」→「中井町食育推進計画」もしくは「同食育編」に。	反映「中井町食育推進計画」に修正	A
PC 対象外	P 2 1 分野別計画 施策番号 3-1-2-3 ●施策内容	「まちこみメール」→「メール配信サービス」	反映	A
PC 対象外	P 2 2 分野別計画 施策番号 3-2-1-2 ●施策内容	【施策内容】網掛けが一文字分多い	反映	A
PC 対象外	P 2 7 分野別計画 施策番号 3-3-2-2 ●施策内容	3-3-2-2「歴史資料の整理解読」→「歴史資料の整理・解読」	反映	A